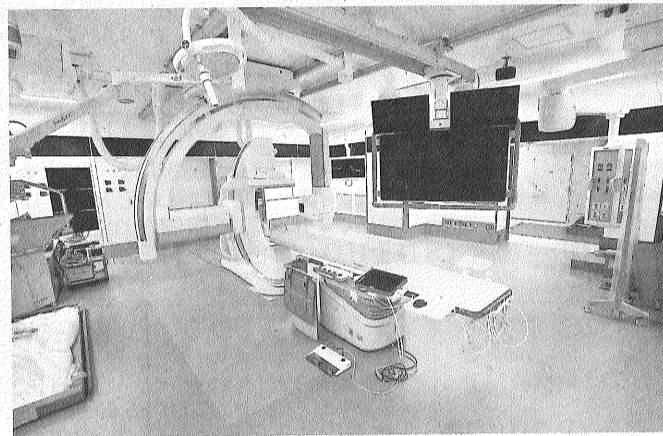
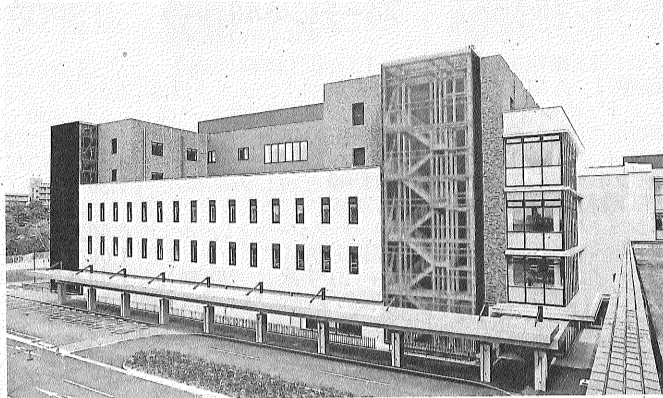


急性期診療棟新たに建設

産業医科大、17日に開院

産業医科大は、北九州市高度急性期医療に対応するために建設したと発表した。八幡西区の大学病院内に「急性期診療棟」を新17日に開院し、業務を始め



①新たに建設された「急性期診療棟」
②新棟に整備された「ハイブリッド手術室」(いずれも産業医科大提供)

る。

新棟は、鉄筋コンクリート造りの地上5階建てで、延べ床面積は約2万2000平方メートル。地震対策で免震構造を採用した。建設から40年以上がたつ同病院本館の老朽化を受け、2021年5月から工事を始めていた。

病床は、集中治療室(ICU)や新生児集中治療管理室(NICU)を含む計205床。一部個室は感染症対策として、ウイルスなどが拡散しないよう「陰圧装置」を付けた。

手術室は、現在の12室から17室に増やした。「ハイブリッド手術室」は手術台のほかに、コンピューター断層撮影装置(CT)や血管造影装置を備えており、手術時間の短縮や安全性の向上が期待される。

7月29日に現地で開かれた記念式典には、加藤厚生労働相や服部知事らが出席。同大を運営する学校法人の生田正之理事長は、「感染症への対応をはじめ、本学が果たすべき役割はますます大きくなっている。期待され、信頼される大学であり続けられるよう、全力を尽くす」と述べた。

(掲載について読売新聞社許諾済、無断転載(コピー、スマートフォン等での撮影)禁止)